

長崎南高校で水泳部に所属し、高校総体は専門のバックで上位入賞、また高校駅伝では陸上部の助っ人として主要区間を任されてきた。大学に進学したらトライアスロンに取り組みたいと話していた白石怜佳さんが、4月に立命館大学に進学し、エリート選手としてトライアスロンデビューを果たしました。

今年1月の認定記録会でスイム、ランともに好記録でJTUジュニア強化指定選手となり、シーズン当初から大会に出場し、経験を積んでインカレやU19日本選手権に挑戦する計画でした。順当に行けば6月の九州選手権で国体代表も掴めるのではと期待していました。ところがコロナ禍ですべての計画が狂いました。大学の部活は活動停止、プールは閉鎖、大学はリモート授業。もちろん大会は国体含めほとんどが中止となりました。初夏になってやっと練習再開、インカレや日本選手権が開催されることを期待して暑い夏をがんばりました。

そして10月、大会主催者の努力で大会が開催されました。デビュー戦がU19とはいえ日本選手権です！

#### (1) 第22回日本U19トライアスロン選手権 (10月17日開催)

S750mB20kR5kのスプリントディスタンス

水温 18.9℃でウェットスーツ着用、気温 13.7℃に冷たい雨という最悪のコンディション。

スイムを先頭から25秒遅れのいい位置で終えるも、バイク→バイクのトランジションに1分以上かかってしまう。バイクは前半がんばったが途中で集団から遅れてしまい、

U19 選手権  
雨中のラン



順位を上げたいランも22分かかり、16位/24名でフィニッシュ。バイクの力不足で集団についていけない、ランに足を残せない。裏を返せば伸びしろの大きさを感じさせたデビュー戦でした。

#### (2) 2020日本学生トライアスロン選手権 渡良瀬大会 (11月1日開催)

S750mB40kR10kのオリンピックディスタンス

水温 17℃で距離が半分に短縮されウェットスーツ着用、気温 13℃だが雨でなかったのはよかった。スイムは1人先行したが、30秒遅れの2位集団の好位置で終える。先頭集団に付けなかったが第2集団でねばりバイクを終える。バイクの疲れで足がつっていたと言うが10kランを38分でまとめ11位/55名でフィニッシュ。初めての51.5だったが最後のランはよく粘ったと思う。



(3) 第26回日本トライアスロン選手権(2020/東京・台場)(11月8日開催)  
S750mB20kR5kのスプリントディスタンス

トップ選手だけが出場できる日本選手権。大会が持つ緊張感に加え経験不足と2大会の疲労が心配。

水温18.2℃でウエットスーツ着用、スイム→バイクのトランジションを50秒で終える。バイクは力のある集団には付けないが、U19日本選手権のバイクについて行けなかった佐藤選手、池口選手の二人に付いていく。バイク→ランのトランジションも素早くこなして3人のラン勝負となった。最後はU19で6位の佐藤選手に競り負けたが、U19で12位の池口選手には先着した。3週間前のレースでは勝負させてもらえなかった2人と最後まで競うことができた。30位/34名でフィニッシュしたのは立派。



日本選手権のバイク。2021年躍進の鍵はバイク！



日本選手権のラン。U19の走りに比べ腕が振れている。

日本選手権のプレッシャーに負けず、それどころか3週間で大きな成長を見せた白石さん、来年の活躍が楽しみです。でも心身の疲労も大きいはず、来シーズンに向けてトレーニング再開する前にゆっくり休んでくださいね！